



母として人として

駒田かすみ市政報告

こまだより

Vol. 2

発行：駒田かすみ事務所 姫路市広畑区長町2丁目138-2 2F TEL.079-239-7655 FAX.079-286-8611

大切な人生、加害者にも被害者にもならないために！

姫路市立3高校、新1年生を対象に「自転車安全運転講習」を開催。

自転車事故が最も多い16歳！

自転車の運転マナーは悪化の一途をたどり、今や社会問題のひとつです。携帯電話でメールや、通話をしながら自転車に乗る人を見かけませんか？このような違反をはじめ、最近では自転車加害者となる事故が多発しています。

政府が行った「年齢別自転車事故件数調査」により、特に16歳、つまり高校1年生の事故が最も多いことがわかっており、これを受け姫路市でも姫路市立姫路高等学校をはじめ、同立琴丘高等学校、同立飾磨高等学校の3校の新1年生、785人を対象に自転車安全運転講習会（主催：姫路市・姫路警察署・飾磨警察署協賛：網干自動車教習所・日本交通安全教育普及協会・姫路交通安全協会・飾磨交通安全協会）を実施いたしました。



モラルの低下が要因じゃない?! 交通ルールを知らない子供たち！

当日の講習では、自動車と共存できる自転車の安全な運行」というテーマに基づいた講義を受けた後、実際の自転車での体験講習を行いました。

思った以上に止まらない自転車の実態や速度の読み取り体験、またダンボールを自転車に見立て、自動車との衝突事故を再現し、その衝撃の大きさを体感してもらった子どもたちからは感嘆の声も漏れ聞こえ、非常に有意義なものになったと思います。

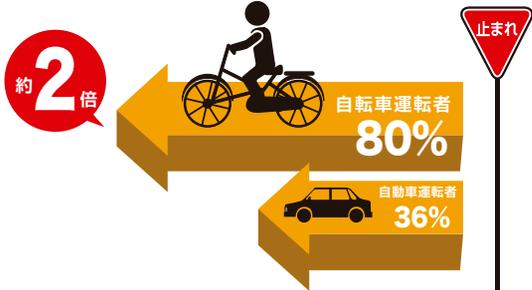
将来に大きな可能性を秘める若い命を守ることはもちろん、自転車も車も加害者にならないために、更なる周知・啓蒙活動を行なっていくべきであり、今後は県教育委員会との連携も不可避だと考えています。



交差点で飛び出したり、更には歩道上で歩行者を縫うように走る自転車など、危険行為は後を断ちませんが、子どもたちにその理由を尋ねたところ「そんなこと知らなかった」「教えてもらっていない」と口々に言います。つまり、車社会の「一員としての意識を養う機会がなかった」と言えるのです。

一時停止無視率

(一時停止標識のある場所での事故。自動車、自転車の運転者に限定)



	死者数	負傷者数
歩行者	5(4)	1,276(1,149)
自転車	17(18)	20,610(20,162)
原付	21(24)	3,554(4,047)
自二	18(23)	1,391(1,529)
四輪	20(14)	4,702(4,506)
その他	1(0)	16(13)
計	82(83)	31,549(31,406)

ごあいさつ



自転車で走るのが気持ちの良い季節になりました。同時に、まだ新しい制服の中学生・高校生が自転車で通学している様子は同じ中高生の子どもを持つ母親として「危なっかしいなあ」とハラハラすることもしばしば。

ここ数年、生活習慣病の予防やメタボ対策として自転車(特にスポーツサイクル)に乗る方が増えています。それと同時に、自転車と歩行者の事故の増加などの現状に危機感を覚えて、私自身、自転車の安全な走行環境を!ルールの教育を!と訴えてまいりました。

小中学生の通学路の安全確保など、自転車だけではなく歩行者・自動車も含めた「道路全体の安全に関するマネジメント」に対する意識も大切です。

危ないから自転車に乗ってはダメ、というのは非常に簡単ですが、「何が危ないのか」を知って「どうしたら誰もが安全に通行できるのか」という“Share the Road”の意識を子ども達に身につけてもらうことが交通安全の第一歩だと考え、「何故ルールを守るのか」を考えてもらう機会ができれば...その願いが、市立3高校の1年生対象の自転車安全運転講習という形で第一歩を踏み出しました!今後も継続して展開していきたいと思えます。

バリアフリーは道路整備というハード面だけでなく、“Share the Road”の意識からも始まります。自転車だけでなく、歩行者も、車椅子もベビーカーも、もちろん自動車も安心して通りやすい交通環境の整備に取り組んでいきたいと思っています。



